

埼玉から新しい日本のカタチを構想するジャーナリズム

新年遅々であいさつ号

The Hands-On Times

特定非営利活動法人ハンズオン！埼玉 TEL & FAX 048-834-2052 URL : www.hands-on-s.org/ 〒330-0063さいたま市浦和区高砂2-10-6

おとうさんのらくがきタイム in 大宮銀座通商店街



2010/11/7

「おとうさんのヤキイモタイム」のキャンペーンのイベントとして、今年度は「らくがき」をしました。商店街さんのご協力を得て、80人のボランティアさんたちで開催。当日は県内の企業さんから寄付していただいた二千人分の「ろう石」を配付。二五〇メートルの道路はあつという間に絵で埋まりました。



「スタップの証言から」通りがかりのおっちゃん突然ドンガラをいっばいくれた／お母さんが「マシオン」だからろう石持つていけない」と言ったら、子どもが「飾つく」と言った／塾帰りの学生が偏差値66とか書いてた／通りがかりの人がゴムの段のはじっこを持つてくれた／学生が年配のおじさんのペーガマ回しのかつこよを請うていた／「昔は道で遊んでましたよ」と話しかけ



「そうそう人が通る時だけよけたりしてね」と嬉しそうに話してくれて／若いババママにも「描いてみませんか？」と話しかけると、ほとんどの方が「じゃあ」といって笑顔でろう石を受けとり道路に座ってくれた／社会人になってから、久しぶりにいろいろな人と話ができた。

おとうさんのヤキイモタイム

お父さんの仲間の応援事業「おとうさんのヤキイモタイム」

キャンペーンを埼玉県と協働で開催中です。県内一〇〇カ所。ただいま週末はあちこちで煙があがっています。一カ所あたり10kgのお芋を生活協同組合ドウコープさんにご寄付ください。1月まで県内あちこちで開催中！

★今後の予定
一月二〇一二年活動計画づくり
二月：埼玉にNPOバンクをつくらう！
三月：大学と地域の連携埼玉大生の活動報告。

▼年末「希望のつくり方」(岩波新書・玄田有史著)を読んだ、思わず「ウソッ」と叫んだ。希望を科学した研究の成果であるこの本の最後の結論がなんと「希望に必要なものはユーモアと遊びだ」とあったからだ。▼「結局、希望には遊びが一番大事だと思っんです」「ユーモアも生活のなかの遊びです。けれども、効率が良ければ優先され、遊びが社会のあらゆるところで急速に失われつつある現代の状況こそ、希望のない閉塞感に覆われた社会の正体なのです。」▼カプリケーション、らくがきタイム：うむ、うちら間違っていないかも。希望という力が入るんで、「幸せに暮らすコツ」と捉えたほうがいかな。ささ、皆さん今年も遊びましょう。(西川)

第3回の講師
林直樹さん

学生と作業所コラボで、 紅赤クッキー開発！



九月にスタートした連続講座では、幻のサツマイモ「紅赤」を使ったクッキーを、埼玉ベルエポック製菓専門学校・エコーベルの学

クッキーを通じて、たくさんの人と出会ってきたクッキープロジェクト。成果を実感する一方で、資金調達など運営面では課題山積。そこで今年度は、継続的に運営できるよう実行委員会方式で、活動目的の確認に始まり、連続講座の企画、バザール開催に至るまで、作業所らとチームになって動くことに。ハンズオンはプロジェクト事務局として関わりました。



講座の第6回は「クッキング」。みんなで作る醍醐味。

た、皮が赤くてホクホク甘いサツマイモの品種です。今後、紅赤クッキーはレジピを各施設で共有し、共通プ

生さんと作業所と共同開発しました。その名も「紅赤いち期一会」。(裏面に制作秘話あり)11月に浦和コロンで開催したクッキーバザールでお披露目し、おかげさまで完売しました。紅赤とは、北浦和で山田いちさんによって発見された、皮が赤くてホクホク甘いサツマイモの品種です。今後、紅赤クッキーはレジピを各施設で共有し、共通プ



レシピ開発は学生さんたちが大活躍

ランドと出す予定で。商品開発講座の参加者や講師の先生をはじめ、学生さん、クッキーサポーターさん、協賛企業さん、寄付やチャリティーで応援してくださった方など、いろいろな人・コトがまぎって、焼き上がったクッキーは、うーん美味。おいしい社会に向かって一歩前進！

バザール完売御礼パーティにて、土屋副代表が書き初めを披露



バザールのデザインは佐藤昌月さん

まちを彩る人・場所を応援する
埼玉地域フアンド研究会

第34回
8/26

サデコの福祉支援活動・プロボノ活動への期待

山岡和彦さん(埼玉デザイン協議会)

第35回
10/20

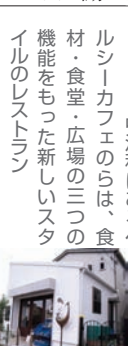
社会をつなぐユニケーション
岩山仁さん(多民族共生人権教育センター)

第36回
11/14

ナビゲーター
路地歩き&おいしい野菜を食す会
at 小川町

第37回
11/14

フアンド研忘年会
at 飲んで食べて「のら応援」
中浦和にあるヘ



ゆずれない夏

—ボランティア・市民活動・NPOの
15年を振り返り、これからを考える



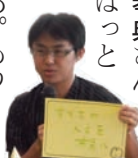
私たちは、大阪ボランティア協会の

が「大事にしたいもの」を確認した。ハズオン5周年記念イベントとして、8月23日「ゆずれない夏」を開きました。早瀬さんの最後の言葉が印象的でした。「何度（団体）の危機はあった。それでも続けてきたのは、参加の力を信じているから」と。だとし



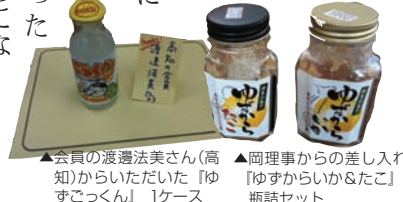
たらハズオンもまだ続けられるかな…希望を胸に、資金難をバネに（笑）、さらに跳べたらと思いました。（若尾）

第二部の発言から…▼阿部陽一郎（ハズオン埼玉理事、中央共同募金会）「あと5年活動を続けるために、みなさんと踊り場を話したい」▼小島美里さん（NPO法人暮らしネット・えん）「介護NPOは、お客様サービスではなく、地域の仲間として」▼傳田ひろみさん（さいたま市市議会議員）「障がい者は、制度ができればできるほど、く



くられて、地域との縁がたたれる」▼藤田孝典さん（NPO法人ほっとポット）「これまでの福祉の対象者を変える。もう何百人ものアパート入居の保証人になっていきます」▼大堀研さん（東京大学社会科学研究所）「だいいじょうぶ、むだでもいいからやってみる、が減ってしまっただ」▼川村研治さん（地球環境パートナーシッププラザ）「どこまでゆずりあえるのか。協働はのりしろを出し合うこと」

暮らしていこうか、どう生きたいか、考え続ける仲間がすぐお隣にいます。ほっとあったかい気持ちになりました。（〇）▼「対等な関係の難しさ」「サービスティン言葉は嫌い」など、日頃より、特に最近、自分が考えている問題を自分の都合のいい方向に解釈しながら、元気をもらいました。意義ある活動には、十分な評価が与えられ、必要なものは備えられると信じていますね。（N）



▲会員の渡邊法美さん（高知）からいただいた「ゆずこくん」1ケース
▲岡理事からの差し入れ「ゆずからいか&たこ」瓶詰セット

みんなで作るから 生まれる味がある。

広報世界遺産



「一期一会」、それでいい。みんなから拍手がわいた。紅赤辛を使った新開発のクッキーの名前が決まった瞬間だ。



材料、味、大きさ、パッケージなどクッキープロジェクトのみんなで作って、創り出したクッキーのネーミング。作業所の利用者やスタッフ、主婦、会社員、デザイナー、学生、などが、まぜこぜになってみんな悩む。みんなで大変じゃないと言えはウソになるけど。「いっしょにいく、人といっしょにできる場面だった。ちなみに、この名前の案を出したのは精神障害者作業所に通うKさん。「プロなんかじゃない。「やつぽ〜」！」拍手がまた沸いた。



わたしのハズオン

たにいさちよさん
なとや人までもが専門化され細分化されるご時世にあつて「まぜこぜ」の装置をつくっていかうとしているところに共感しています。これから期待すること？まあだいたい明後日くらいまで楽しく暮らせることを考えているとずっと続いていくんじゃないかなーと思います。できることをしていきますのでちよとずつ持ち寄ってですね、これからもその、ひとつよろしく…コホン。



武者修行に。ラクラギの準備がはばつてくれた。一月ヤキモタタイムスタート。事務所がイモ箱で山積み。高知工科大学から中屋君が



八月三日、「ゆず夏」開催。終了後の飲み会でも、理事一同でトークゲストの大堀研さんに「ぜひ理事に！」と熱烈なラブコールやめられない夏。九月、日々「地プラン」研究。富山「ますすし」もクッキーは逸品！▼三日、理事会。岡理事も九州からかけつけ、大堀さんの理事就任が全会一致で可決。▼クッキー連続講座スタート。若尾は、クッキーメンバ等と広告営業で毎日飛び回る▼一〇月ヤキモタ主催団体募集開始。「イモください」の電話対応にあたる。二日、幻の「紅赤」イモ掘り。二五日、ラクガキタイム開催にむけて、商店街あいさつ回り。「チラシ配つてくね！」にこりの天ぷら屋さんと出合いに西川ウキウキ▼一〇月末、さいたま市経済政策課のCSR事例集作成事業に応募するも落選▼一月ヤキモタタイムスタート。事務所がイモ箱で山積み。高知工科大学から中屋君が

